

第172期 株主通信

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日



(本社外観)

Contents

株主の皆さまへ	01
連結業績ハイライト	01
主要連結財務データ	02
セグメント別業績	03
特集 社長インタビュー	05
連結財務諸表	09
会社の概況／株式情報	10

株主の皆さまへ

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループの第172期連結事業に関しましてご報告を申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調が続きました。

当社グループにおきましては、主力商品市場における競争激化が進み厳しい状況が続くなかで、他社との差別化を図り拡販施策に注力した結果、売上高は微増となりましたが、収益面では原材料の高騰などで苦戦が続きました。

当社グループは、業績改善及び事業拡大を図るべく、経営体制の見直しを行うとともに、ものづくりの原点に立ち返り、消費者ニーズに合致した付加価値の高い商品開発に取り組み、市場競争力の強化に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

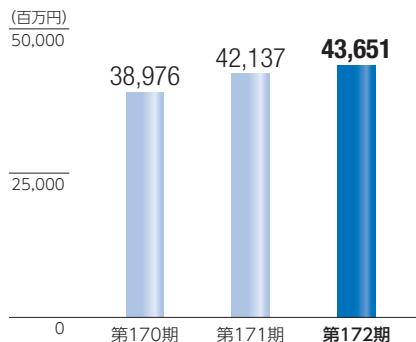
河村桂作

令和元年6月

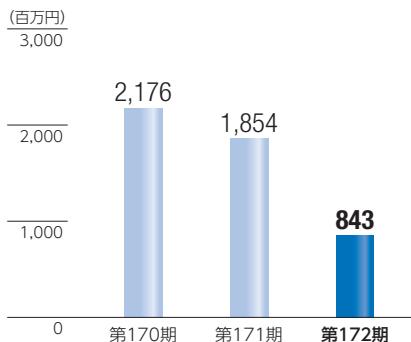
連結業績ハイライト

※ 当社は2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算定しております。

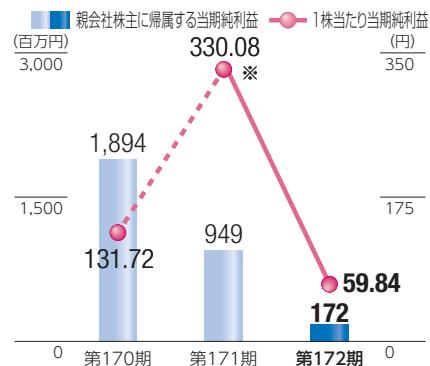
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益

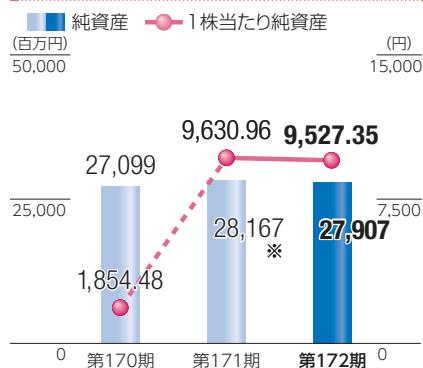


主要連結財務データ

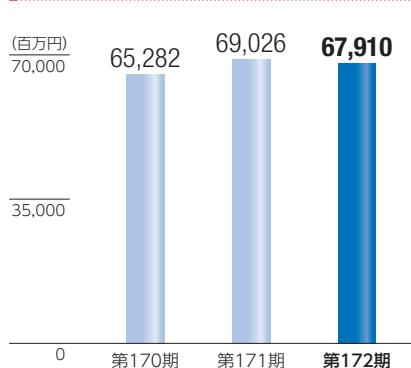
項目		期別	第170期 (2016.4.1~2017.3.31)	第171期 (2017.4.1~2018.3.31)	第172期 (2018.4.1~2019.3.31)
売上高	(百万円)		38,976	42,137	43,651
経常利益	(百万円)		2,176	1,854	843
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)		1,894	949	172
一株当たり	当期純利益 (円)		131.72	330.08	59.84
	純資産 (円)		1,854.48	9,630.96	9,527.35
総資産	(百万円)		65,282	69,026	67,910
純資産	(百万円)		27,099	28,167	27,907

コラーゲン・ケーシング部門において、エネルギーコストの増加とともに、在庫調整や自然災害による工場稼働率の低下などもあり、製造コストが上昇しました。また、在庫調整を意図した拡販施策などによって営業に係る収益が減少しました。並びに、ゼラチン・ペプタイド部門において、原材料高騰により製造コストが増加しました。これらが主因となり、経常利益は前年比で大きく減少しました。

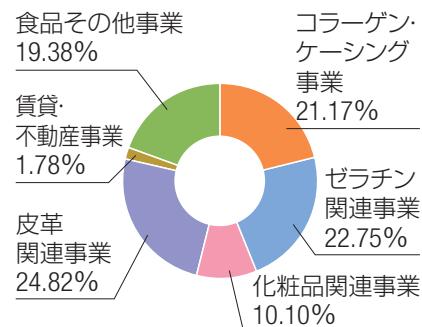
純資産／1株当たり純資産



総資産



セグメント別売上高(連結)



セグメント別業績

コラーゲン・ケーシング事業

売上高

9,242百万円

(490百万円増)
(前期比 105.6%)

営業損失

108百万円

(883百万円減)
(前連結会計年度の
営業利益は 775百万円)

国内ソーセージ市場の停滞が続くなかで、消費者の天然羊腸への志向性の高まりもあり、国内販売は前期に引き続き伸び悩みました。一方、輸出版売は在庫削減を意図した拡販施策に注力し、売上げは伸張したものの、競合他社との激しい価格競争により収益面では厳しい状況で推移しました。

当事業の収益の改善は、当社グループの大きな課題と考えております。製造部門における各工程の生産性の向上に注力し、製造コストの削減に取り組んでまいります。また、販売活動においては、収益性を重視した新市場の開拓や新製品の開発を推し進めてまいります。



▲コラーゲン・ケーシング

ゼラチン関連事業

売上高

9,932百万円

(410百万円増)
(前期比 104.3%)

営業利益

861百万円

(242百万円減)
(前期比 78.0%)

ゼラチン部門は、惣菜用途、ソフトカプセル用途、グミキャンディ用途が好調に推移しました。ペプタイド部門は、健康食品用途、医薬用途などが好調に推移しましたが、魚由来コラーゲンペプチドの需要急増による原料の逼迫・急騰があり、採算面で苦戦しました。

魚原料は、今後も価格上昇が懸念されますが、用途開発をはじめ、高付加価値商品の開発、ユーザーへの提案活動をさらに推し進めて高収益体制を目指してまいります。また、新工場は、工期の遅れがあるものの本事業年度中に稼働予定です。同工場の本格稼働により生産力の強化及び販売量の増加を見込んでおります。



▲コラーゲンペプチド

賃貸・不動産事業

売上高

776百万円

(1百万円増)
(前期比 100.2%)

営業利益

611百万円

(2百万円増)
(前期比 100.4%)

賃貸事業は、概ね堅調に推移しました。

再開発中の東京都足立区の土地賃貸事業は、大規模商業施設、保育所、フットサルコート、駐車場用地のほか、一部を仮設学校用地として足立区に期限付きで賃貸しております。ま

た、大阪市浪速区の土地賃貸事業は、駐車場用地として引き続き賃貸しております。

従来からの下町へのイメージは、近年若年層を中心に住みたい街へと変化しつつあり、ボンテグランデTOKYO街全体の賑わい感は増してきております。今後は、同地区の認知度向上を図り、資産価値の増大に取り組んでまいります。



▲ボンテグランデTOKYOの街区風景

化粧品関連事業

売上高

4,407百万円

(398百万円増)
(前期比 110.0%)

営業利益

267百万円

(31百万円増)
(前期比 113.3%)

健康食品部門は、引き続き好調に推移しました。
化粧品部門は、近年拡大し続けている通信販売市場のなかで、WEB経由での新規顧客の獲得と販売促進に注力するとともにブランディングの構築と浸透に努めました。その結果、ブランドの認知度が向上し、顧客数が回復しております。

また、昨年10月に『トリートメント イン シャンプー』を新発売いたしました。地肌に動く新機能コラーゲン（加水分解コラーゲン）を配合することで、頭皮と髪を同時にケアします。泡立てた状態で3分間置いてパックするという使用方法が特徴で、大変好評を得ております。



▲トリートメント イン シャンプー

皮革関連事業

売上高

10,834百万円

(474百万円減)
(前期比 95.8%)

営業利益

378百万円

(179百万円減)
(前期比 67.8%)

靴・袋物部門は、婦人靴用革及び輸入靴で不調が続くなかで、原皮買付から仕上がりに至るまでの丁寧な対応に注力することで品質と供給の安定化に努めた結果、大手紳士靴メーカーを中心に紳士靴用革が順調に推移しました。

車輻部門は、主要顧客の受注に対応した良品質の製品を安定的に供給することに注力した結果、売上げは順調に推移しましたが、価格改定などにより利益率は低下しました。

皮革業界を取り巻く環境は、依然として厳しい状況で推移しております。当社グループは、長年皮革業界を牽引してきた強みを活かし、取引先との連携を深めてまいります。



▲紳士靴

食品その他事業

売上高

8,457百万円

(686百万円増)
(前期比 108.8%)

営業利益

180百万円

(7百万円減)
(前期比 95.9%)

穀物部門は、健康志向を背景とした有機穀物への人気が増え、益々高まるなかで、新規顧客の獲得に注力し好調に推移しました。イタリア食材、肥料、iPS細胞関連、リンカー製品についても販売は堅調に推移したものの、為替などの影響

もあり利益率は低下しました。

再生医療の進歩により新しい市場が生まれ、大きく成長していくことが見込まれます。このような状況のなかで、コラーゲン、ラミニンなどの細胞外マトリックスの役割が改めて注目されてきております。当社グループは、引き続きコラーゲン及びラミニン関連商品の研究開発に注力してまいります。



▲iMatrixシリーズ



社長に就任された今の心境と抱負をお聞かせください。

この度、代表取締役社長に就任した河村桂作です。前任の伊藤からバトンを受けた今、とても身の引き締まる思いです。当社の事業内容は、会計のセグメントでは6つですが、業種としてはもっと多く、それぞれで発展できる可能性を有していると判断しています。社員とともにこの可能性を現実に変え、今後のさらなる発展・飛躍に繋がりたいと考えています。

また、企業とステークホルダーの関係については、常に双方が真摯に向き合うことが大切だと考えています。特に企業からは、常に情報を発信すること、そして投資家の皆さまのご意見を検討し、どのような結果であっても必ず回答することが重要だと認識しています。

今後も全社一丸となり、企業価値の向上に取り組んでまいります。

新 代表取締役社長 河村 桂作 (かわむら けいさく)

1947年8月24日千葉県生まれ。71歳。1971年4月、大倉商事株式会社入社。経理・財務関連の業務に従事し、ドイツ(旧西ドイツ)、アメリカでの勤務を経験。2000年1月に当社入社。執行役員経理部長を経て2007年6月に取締役経理部長に就任。ゼラチン事業部、リンカー部、経理・財務を担当。2013年6月、常務取締役に就任。開発推進室・経営企画室・皮革事業部等を担当し、2019年4月に代表取締役社長に就任。日皮(上海)貿易有限公司董事長、株式会社ニッピ・フジタ代表取締役社長、海寧日皮皮革有限公司董事長を兼務。





ご自身の年齢について どうお考えですか？

もちろん、高齢であることは自覚しております。ですから、古い固定観念に陥らないように、時代の流れや社会の変化には一層の注意深さが必要だと思っています。ですが、体力に関して言えば、百メートル走やプロレスをやる訳ではありませんし、それなりの自信はありますよ。座右の銘なんでものじゃありませんが、“人生に too late はない、気付いたら直ぐにやる事！”と思うようにしています。苦しいときの自分への慰めですかね。



2018年度を 振り返ってください。

ケーシング事業での思いのほか大きかった不振と、好調であったゼラチン・ペプタイド事業での魚原料の逼迫と価格高騰への対応策に振り回された1年、という印象です。これらが主因となり、前事業年度は、業績を大きく下げてしまいました。

社内・外両方での原因及び必要因がありますが、これらを良く分析検討し、今後への対応策を実施して行かなければなりません。

当面の課題は、早急に対応策を実行し、回復を期すことです。また、新たな事業の取り組みも始まっておりますので、その展開に向けて集中してまいります。



現在の各事業における 市場をどう捉えていますか？

皮革業界は縮小し、年々厳しさを増しています。長年業界が低迷している婦人靴用革は、安価物又は異素材の伸張が原因です。この環境下において、当社の長きに亘る知識経験を活かし、商品の差別化を図るとともに、業態への工夫・変化対応等によって本事業の継続と拡大に取り組んでいきたいと考えています。また、車輛用革は、物流の多くが海外主体となっておりますが、当社の実績を活かして今後も業界の変化に対応してまいります。

コラーゲン・ケーシング事業は、これまで主に品質をセールスポイントに好業績を上げてきましたが、昨今は海外の競合会社との価格競争を強いられています。今後は、品質は維持しながらもコスト低減に注力し、国内外の市場競争に対応して行かなければなりません。

ゼラチン・ペプタイド事業では、特にコラーゲンペプチドの取引で当社の強みを前面に押し出していきたいと考えています。今後は、国内はもちろん、商品特性の認知が広がっている海外市場で取引拡大を目指してまいります。また、本事業年度中に稼働予定の新ペプタイド工場の活躍を期待しています。

化粧品・健康食品事業では、主力商品である「スキンケア ジェル」と「ニッピコラーゲン100」をベースにしながら、コラーゲンメーカーとしての当社の強みを活かすことで、時代の変化・要請に応える商品提供が可能

特集 社長インタビュー

であり、今後も成長できる事業であると考えています。

バイオ関連事業では、時代の先端であり成長分野である再生医療関連の研究開発及び商品改良に積極的に取り組みたいと考えています。特に、iPS細胞関連分野の今後の伸張は必至のことと予想されます。また、当社の技術力が活かされた医療用のコラーゲンやゼラチンなどは、外部からの要請や引き合いも多く、今後大きな展開を期待しています。

貿易事業の主力は、穀物の輸入取引です。専門知識を有したプロフェッショナルな人員が、市場動向を見極めて業績拡大に貢献しています。近年、健康ブームにある国内での需要が高まるなかで専門性を発揮し、さらなる取引拡大を目指します。

賃貸・不動産事業では、市場の要請又は案件の条件次第では、いつでも大型の事業化・収益化に対応できる体制を整えています。市場動向を注視しながらも、早期の事業化を目指しております。



Q 今後の展望、 成長目標をお聞かせください。

企業、特に製造会社の発展に必要なことの一つは、研究であれ事業であれ先行投資です。

ここ数年では、ケーシングやペプタイトの新工場建設と大きな事業投資を行ってきました。しかし、前事業年度で事業成績を大きく下げてしまい、今現在は新たな大きな投資は難しい状況にあります。ですから、また今後に向けた大きな投資ができるように、早く事業収益力を立て直し、当社を成長へと向かわせて行くことが私の責務であると自覚しております。各事業分野では、それぞれが成長発展の可能性を有していますが、とりわけ医療系、健康維持増進に係る事業について今後重視して行きたいと考えています。

Q 最後に、株主の皆さまへ メッセージをお願いします。

前事業年度では、業績を大きく下げてしまいご心配をお掛けしています。一日も早く立て直しを行い、当社及びグループ企業がこれまで以上に発展するように、精一杯頑張っております。株主の皆さまには、一層のご支援をお願い申し上げます。

令和元年6月
代表取締役社長

河村桂彦



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第171期 (2018年3月31日現在)	第172期 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	25,044	23,027
固定資産	43,973	44,876
有形固定資産	38,737	40,080
無形固定資産	177	191
投資その他の資産	5,058	4,604
繰延資産	7	5
資産合計	69,026	67,910
負債の部		
流動負債	25,024	23,204
固定負債	15,834	16,798
負債合計	40,858	40,003
純資産の部		
株主資本	17,675	17,674
その他の包括利益累計額	10,028	9,730
非支配株主持分	463	502
純資産合計	28,167	27,907
負債及び純資産合計	69,026	67,910

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第171期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	第172期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
売上高	42,137	43,651
売上原価	32,478	34,971
販売費及び一般管理費	7,653	7,848
営業利益	2,006	831
営業外収益	166	294
営業外費用	318	282
経常利益	1,854	843
特別利益	30	0
特別損失	160	8
税金等調整前当期純利益	1,724	835
当期純利益	994	213
親会社株主に帰属する当期純利益	949	172

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第171期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	第172期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,717	2,034
投資活動によるキャッシュ・フロー	△602	△3,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	△590	29
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	△44
現金及び現金同等物の増・減(△)額	538	△1,171
現金及び現金同等物の期首残高	4,092	5,120
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	489	—
現金及び現金同等物の期末残高	5,120	3,948

会社の概況

(2019年3月31日現在)

■ 会社の概要

商号	株式会社ニッピ
設立年月日	1907年(明治40年)4月1日
資本金	4,404百万円
従業員数	636名(連結対象会社合計)
本社	東京都足立区千住緑町1-1-1
主な事業内容	コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、その他コラーゲン関連商品の製造販売及び皮革関連製品等の販売
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp/
主要取引銀行	みずほ銀行 三菱UFJ銀行 三井住友銀行

(2019年6月27日現在)

■ 取締役及び監査役

代表取締役会長	伊藤 隆 男
代表取締役社長	河村 桂 作
取締役	小林 祥 彦
取締役	橋 爪 秀 知
取締役	大 浦 顕 逸
取締役	井 上 善 之
取締役(社外)	村 上 勝 彦
監査役※	吉 田 安
監査役(社外)	早 山 徹
監査役(社外)	大 倉 喜 彦

※は常勤監査役

株式情報

(2019年3月31日現在)

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社リーガルコーポレーション	415	14.45
大成建設株式会社	222	7.74
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	118	4.13
中央建物株式会社	116	4.05
東京建物株式会社	100	3.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	77	2.70
株式会社みずほ銀行	69	2.43
みずほ信託銀行株式会社	60	2.09
特種東海製紙株式会社	50	1.74
RE FUND 107-CLIENT AC	43	1.49

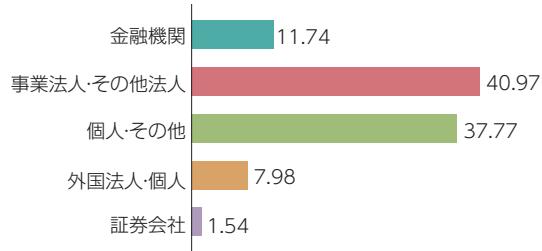
(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、自己株式(12,514株)を控除して計算しております。

■ 株式の状況

発行可能株式総数	11,550,000株
発行済株式の総数	2,876,486株
	(自己株式12,514株を除く)
株主総数	2,661名

所有者別持株比率



ホームページのご案内

当社ホームページでは、製品情報、IR情報など様々な情報を掲載しております。



<https://www.nippi-inc.co.jp/>

株主優待

2019年3月31日現在の株主名簿に記載された、1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象といたします。

●「ニッピコラーゲン100」1箱(110g×3袋)



7月上旬の発送を予定しております。

●お問い合わせ先
03-3888-6651

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 基準日	毎年6月 定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める
配当金受領株主確定日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 (郵便物送付先) (電話照会先)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

【株式に関するお手続きについて】

1. 証券会社等に口座をお持ちの場合、原則として住所変更や買取請求などの株主様の各種お手続きは、ご利用の証券会社等を経由して行っていただくこととなりますので、証券会社等宛ご連絡をお願いいたします。
2. 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、「みずほ証券」本店・全国各支店・プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店でお取り扱いいたします。
3. 支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、上記「郵便物送付先」宛お問い合わせください。
4. 未払配当金のお支払につきましては、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店、「みずほ銀行」本店・全国各支店にお問い合わせください。なお、「みずほ証券」ではお取り次ぎのみとさせていただきます。